

# 伊那谷・経済動向

## 中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuschuo-shinkin.jp/>

ALSHIN  
BANK

主要指標		今期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業案内所管内)		29/2 1.77 倍	28/2 1.41 倍	前年同月比 0.36 倍
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	9,731 台	8,500 台	14.48 %
	中古車	2,131 台	1,931 台	10.36 %
	合計	11,862 台	10,431 台	13.72 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (上伊那地方事務所管内)		12~2月 178 件	12~2月 138 件	28.99 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		7,921 人	8,505 人	-6.87 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	269,886 台	267,400 台	0.93 %
	出	254,179 台	251,139 台	1.21 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	363,930 台	358,088 台	1.63 %
	出	368,139 台	366,897 台	0.34 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	275,650 台	272,389 台	1.20 %
	出	272,077 台	270,370 台	0.63 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	205,872 台	202,648 台	1.59 %
	出	198,065 台	192,562 台	2.86 %

前期10-12月 今期1-3月 来期4-6月 7-9月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先206社に対し、平成29年1月～3月期の景気の現状と平成29年4月～6月期の見通しを調査したものです。

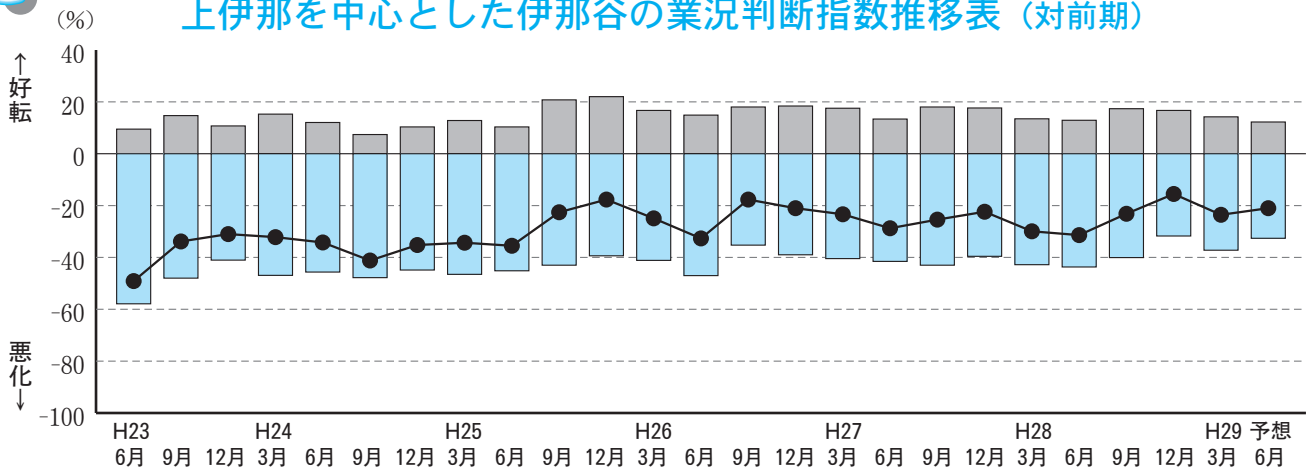
## 地区内の景況観

◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は**15.0%**（前期**17.6%**）、悪かったとする企業は**38.0%**（前期**32.4%**）、DIは**▲23.0**（前期**▲14.8**）と**8.2**ポイント低下、2期ぶりの悪化幅拡大となった。

業種別のDIを見ると、**製造業▲9.9**（前期**▲5.8**）、**建設業▲14.7**（前期**▲2.5**）、**卸売業▲40.0**（前期**▲10.0**）、**小売業▲37.1**（前期**▲43.3**）、**サービス業▲50.0**（前期**▲19.2**）、**不動産業0.0**（前期**▲16.6**）で不動産業以外の業種がマイナス領域となっている。前期と比較して、**製造業は4.1**ポイント、**建設業は12.2**ポイント、**卸売業は30.0**ポイント、**サービス業は30.8**ポイント低下し悪化幅が強まった。一方で、**小売業は6.2**ポイント水面下ながら改善、**不動産業は16.6**ポイント改善した。

◇**来期の見通し**：来期の業況を総合的に見ると、良いと予想する企業は**12.9%**（今期**15.0%**）、悪いと予想する企業は**33.3%**（今期**38.0%**）、DIは**▲20.4**（今期**▲23.0**）と**2.6**ポイント上昇、若干ではあるが景況感が上向く予想をしている。業種別のDIを見ると、**製造業▲4.3**、**建設業▲31.7**、**小売業▲51.4**、**サービス業▲30.8**、**卸売業20.0**、**不動産業50.0**で、卸売業と不動産業を除く業種がマイナス領域を予想している。今期と比較して、**不動産業は50.0**ポイント改善、**卸売業は60.0**ポイント改善しプラス領域、**製造業とサービス業は水面下ながらそれぞれ5.6**ポイント、**19.2**ポイント改善する見通しとなっている。一方で、**建設業は17.0**ポイント、**小売業は14.3**ポイント悪化幅が拡大する見通しとなっている。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

## 業種別天気図

業種	時期	平成28年	平成28年	平成29年	平成29年
		7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期予想
総合		☁	☁	☁	☁
製造業		☁	☁	☁	☁
建設業		☔	☁	☁	☔
卸売業		☁☔	☁	☔	☁☔
小売業		☔	☔	☔	☔
サービス業		☁	☁	☔	☔
不動産業		☁☔	☁	☁	☔☀



## 製造業 (調査先企業76社 うち回答企業71社)

◆**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**19.7%**（前期**26.1%**）、悪かったとする企業は**29.6%**（前期**31.9%**）でDIは**▲9.9**（前期**▲5.8**）と**4.1**ポイント低下した。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲2.8**（前期**4.3**）と**7.1**ポイント減少した。受注残のDIは**8.5**（前期**2.9**）と**5.6**ポイント上昇し増加傾向を強めた。収益のDIは**▲5.7**（前期**▲7.1**）と**1.4**ポイント上昇し水面下ながら3期連続改善した。価格の面では原材料価格のDIは**▲25.4**（前期**▲17.2**）と価格の上昇が強まり、販売価格のDIは**▲8.5**（前期**▲2.8**）と下降を強めている。資金繰りのDIは**▲9.8**（前期**▲11.4**）と**1.6**ポイント改善した。借入れをした企業は**31.0%**（前期**29.0%**）、設備投資の実施をした企業は**38.8%**（前期**32.9%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI**10.0**（前年同期**▲9.5**）と**9.5**ポイント改善、収益はDI**▲4.2**（前年同期**▲17.5**）と**13.3**ポイント改善した。

◆**来期の見通し**：来期の見通しについては、DIは**▲4.3**（今期**▲9.9**）と**5.6**ポイント上昇、業況は水面下ながら改善を予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額はDI**▲15.5**（今期**▲2.8**）とさらに減少する見通しである。受注残はDI**▲14.1**（今期**8.5**）と増加から減少に転じる見通しである。収益はDI**▲23.9**（今期**▲5.7**）と減少する見通しである。原材料価格のDIは**▲21.1**（今期**▲25.4**）と価格の上昇を予想する企業は2割強ある。販売価格のDIは**▲2.8**（今期**▲8.5**）と今期より厳しさが和らぐ見通しである。資金繰りのDIは**▲15.5**（今期**▲9.8**）と厳しさが増す見通しである。借入れを予定している企業は**25.4%**（今期実施**31.0%**）、設備投資の実施を予定している企業は**40.0%**（今期実施**38.8%**）となっている。

### ◆DI指数推移

	平成28年				平成29年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲23.8	▲40.3	▲13.9	▲5.8	▲9.9	▲4.3
売 上 額	▲17.5	▲29.9	▲13.6	4.3	▲2.8	▲15.5
受 注 残	▲11.1	▲26.9	▲12.3	2.9	8.5	▲14.1
収 益	▲17.5	▲25.4	▲16.6	▲7.1	▲5.7	▲23.9
販 売 価 格	▲3.1	▲7.4	▲6.1	▲2.8	▲8.5	▲2.8
原 材 料 価 格	3.2	▲11.9	3.1	▲17.2	▲25.4	▲21.1
原 材 料 在 庫	6.3	9.0	7.6	11.4	9.9	5.6
資 金 繰 り	▲12.9	▲19.4	▲16.7	▲11.4	▲9.8	▲15.5

### ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	した	35.5	30.3	31.8	29.0	31.0	25.4
	しない	64.5	69.7	68.2	71.0	69.0	74.6
借 入 難 易 度	容 易	11.5	10.4	10.6	10.0	8.5	—
	不 変	70.5	67.3	68.2	68.5	73.1	—
	難	8.2	11.9	10.6	8.6	8.5	—
	該当なし	9.8	10.4	10.6	12.9	9.9	—

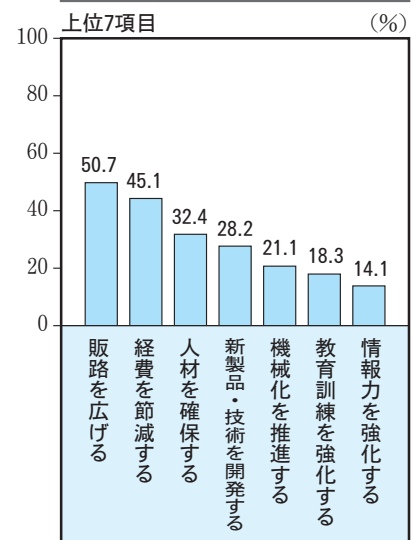
### ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	した	31.0	44.2	43.6	32.9	38.8	40.0
	しない	69.0	55.8	56.4	67.1	61.2	60.0
状 況	過 剰	4.8	9.0	7.6	4.3	2.8	2.8
	適 正	80.7	76.1	75.7	75.7	73.3	71.8
	不 足	14.5	14.9	16.7	20.0	23.9	25.4
DI	▲9.7	▲5.9	▲9.1	▲15.7	▲21.1	▲22.6	

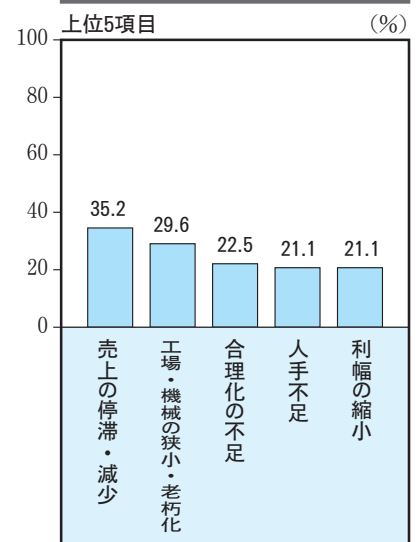
### ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	15.9	14.9	19.7	30.0	29.6	4.2
	不 変	51.0	52.3	53.0	50.0	54.9	77.5
	減 少	33.1	32.8	27.3	20.0	15.5	18.3
人 手	過 剰	4.8	10.4	9.1	8.6	5.6	5.6
	適 正	64.6	64.2	63.6	65.7	60.6	67.6
	不 足	30.6	25.4	27.3	25.7	33.8	26.8

### 重点経営施策(複数回答)



### 経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

# 建設業

(調査先企業44社 うち回答企業41社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**14.6%**（前期**15.0%**）、悪かったとする企業は**29.3%**（前期**17.5%**）で、DIは**▲14.7**（前期**▲2.5**）と**12.2**ポイント低下した。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲26.9**（前期**5.0**）と**31.9**ポイント低下し減少に転じた。受注残のDIは**▲17.1**（前期**7.5**）と**24.6**ポイント低下し減少に転じた。施工高はDI**▲14.6**（前期**22.5**）と**37.1**ポイント低下し減少に転じた。収益はDI**▲24.3**（前期**5.0**）と**19.3**ポイント低下した。価格面では請負価格がDI**▲7.3**（前期**▲10.0**）と**2.7**ポイント上昇した。材料価格はDI**▲17.5**（前期**▲12.5**）と**5.0**ポイント低下、価格が上昇したとする企業の割合が増加した。資金繰りについては、DI**▲26.8**（前期**▲25.0**）と**1.8**ポイント悪化した。借入れをした企業は**48.8%**（前期**42.5%**）、設備投資の実施をした企業は**46.9%**（前期**46.9%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI**▲19.5**（前年同期**▲46.3**）、収益はDI**▲26.8**（前年同期**▲48.8**）とそれぞれ**26.8**ポイント、**22.0**ポイント改善した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DI**▲31.7**（今期**▲14.7**）と**17.0**ポイント低下、業況感はさらに落ち込む予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額はDI**▲14.6**（今期**▲26.9**）と減少幅が縮小する見通しである。受注残はDI**▲19.5**（今期**▲17.1**）と減少を強める見通しである。収益はDI**▲29.2**（今期**▲24.3**）と悪化する見通しである。請負価格はDI**▲14.7**（今期**▲7.3**）と価格が下降する見通しである。材料価格はDI**▲14.7**（今期**▲17.5**）と僅かながら価格が下降する見通しである。資金繰りはDI**▲24.3**（今期**▲26.8**）と僅かながら改善する見通しである。借入れを予定している企業は**45.0%**（今期実施**48.8%**）、設備投資の実施を予定している企業は**20.5%**（今期実施**46.9%**）となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	平成28年				平成29年	予想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	▲34.1	▲36.6	▲38.5	▲2.5	▲14.7	▲31.7
売上額	▲31.7	▲39.0	▲2.6	5.0	▲26.9	▲14.6
受注残	▲36.6	▲36.6	▲2.6	7.5	▲17.1	▲19.5
収益	▲39.0	▲46.4	▲20.5	▲5.0	▲24.3	▲29.2
販売価格	▲19.5	▲17.1	▲17.9	▲10.0	▲7.3	▲14.7
原材料価格	▲20.0	▲14.6	▲10.3	▲12.5	▲17.5	▲14.7
原材料在庫	4.9	▲2.4	7.9	2.5	▲2.4	0.0
資金繰り	▲46.3	▲26.8	▲23.0	▲25.0	▲26.8	▲24.3

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成28年				平成29年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借入実施	した	56.4	50.0	39.5	42.5	48.8	45.0
	しない	43.6	50.0	60.5	57.5	51.2	55.0
借入難易度	容易	10.3	8.1	5.4	5.1	7.5	-
	不変	53.8	56.8	62.2	51.4	60.0	-
	難	25.6	21.6	21.6	25.6	20.0	-
	該当なし	10.3	13.5	10.8	17.9	12.5	-

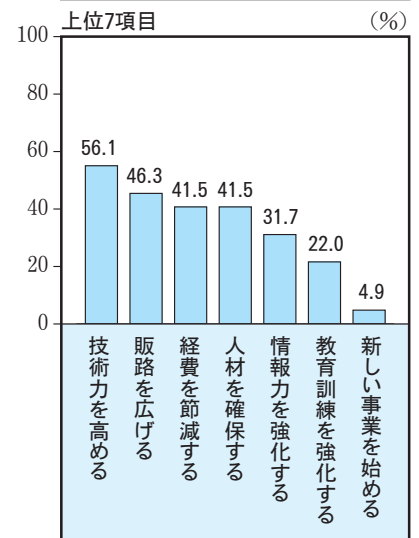
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成28年				平成29年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実施	した	32.6	16.3	29.5	46.9	46.9	20.5
	しない	67.4	83.7	70.5	53.1	53.1	79.5
状況	過剰	2.4	2.5	7.9	7.5	4.9	2.4
	適正	80.5	87.5	78.9	82.5	80.5	83.0
	不足	17.1	10.0	13.2	10.0	14.6	14.6
DI	▲14.7	▲7.5	▲5.3	▲2.5	▲9.7	▲12.2	

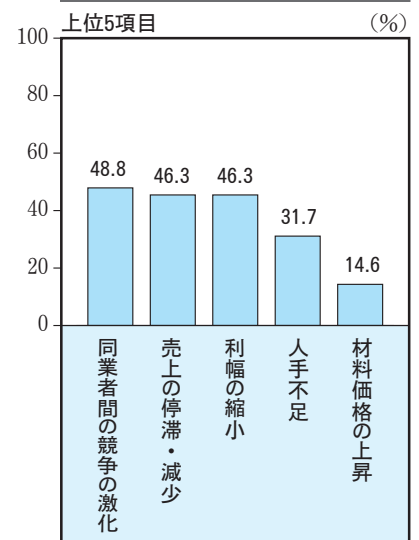
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成28年				平成29年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残業時間	増加	0.0	4.9	5.1	12.5	7.3	4.9
	不変	80.5	58.5	77.0	75.0	73.2	73.1
	減少	19.5	36.6	17.9	12.5	19.5	22.0
人手	過剰	14.6	19.5	10.3	5.1	4.9	17.1
	適正	65.9	58.5	58.9	59.0	61.0	53.6
	不足	19.5	22.0	30.8	35.9	34.1	29.3

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



## 卸 売 業 (調査先企業10社 うち回答企業10社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**0.0%**(前期**20.0%**)、悪かったとする企業は**40.0%**(前期**30.0%**)で、DIは**▲40.0**(前期**▲10.0**)と**30.0**ポイント低下、業況感が大きく落ち込んだ。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲30.0**(前期**40.0**)、収益のDIは**▲40.0**(前期**20.0**)とそれぞれ大きく減少に転じた。価格面は販売価格・仕入価格ともにDI**0.0**と今期は常態となっている。資金繰りはDI**▲30.0**(前期**▲20.0**)と厳しさが増した。借入れをした企業は**30.0%**(前期**20.0%**)、設備投資の実施をした企業は**18.2%**(前期**10.0%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI**▲30.0**(前期**0.0**)と減少に転じ、収益はDI**▲30.0**(前年同期**▲10.0**)と悪化した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI**20.0**(今期**▲40.0**)と**60.0**ポイント上昇、好転を予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**40.0**(今期**▲30.0**)、収益のDIは**30.0**(今期**▲40.0**)と、それぞれ増加に転じる見通しである。価格面は販売価格・仕入価格ともにDI**0.0**と今期同様、常態を予想している。借入れを予定している企業は**10.0%**(今期実施**30.0%**)、設備投資の実施を予定している企業は**0.0%**(今期実施**18.2%**)となっている。

## ◆DI指数推移

	平成28年				平成29年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲40.0	30.0	27.3	▲10.0	▲40.0	20.0
売 上 額	▲60.0	50.0	9.1	40.0	▲30.0	40.0
収 益	▲60.0	60.0	0.0	20.0	▲40.0	30.0
販 売 価 格	▲10.0	30.0	0.0	10.0	0.0	0.0
仕 入 価 格	0.0	▲10.0	▲18.2	▲20.0	0.0	0.0
在 庫	40.0	30.0	45.5	50.0	10.0	0.0
資 金 繰 り	▲20.0	20.0	▲9.1	▲20.0	▲30.0	10.0

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	した	50.0	30.0	18.2	20.0	30.0	10.0
	しない	50.0	70.0	81.8	80.0	70.0	90.0
借 入 難 易 度	容 易	20.0	10.0	9.1	0.0	10.0	—
	不 変	70.0	70.0	72.7	90.0	80.0	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	—
	該当なし	10.0	20.0	18.2	10.0	0.0	—

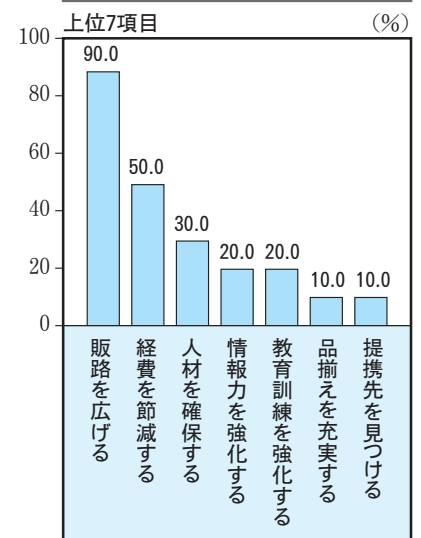
## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	した	30.0	10.0	8.3	10.0	18.2	0.0
	しない	70.0	90.0	91.7	90.0	81.8	100.0
状 況	過 剰	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	80.0	80.0	90.9	90.0	77.8	80.0
	不 足	10.0	10.0	9.1	10.0	22.2	20.0
DI	0.0	0.0	▲9.1	▲10.0	▲22.2	▲20.0	

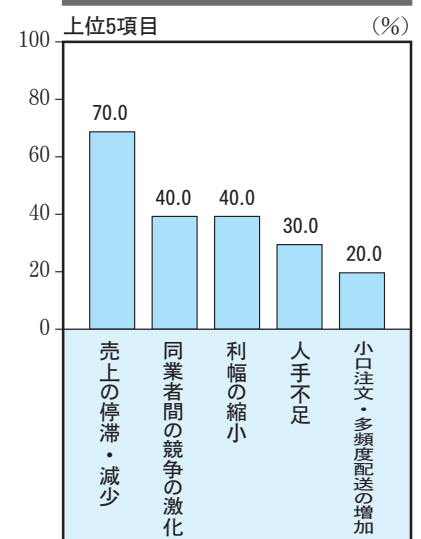
## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	0.0	40.0	9.1	10.0	10.0	10.0
	不 変	90.0	60.0	90.9	90.0	80.0	70.0
	減 少	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	20.0
人 手	過 剰	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	70.0	90.0	81.8	100.0	100.0	80.0
	不 足	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	20.0

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

# 小 売 業

(調査先企業40社 うち回答企業35社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**14.3%**（前期**10.8%**）、悪かったとする企業は**51.4%**（前期**54.1%**）で、DI**▲37.1**（前期**▲43.3**）と**6.2**ポイント悪化幅が縮小した。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲22.9**（前期**▲18.9**）、収益のDIは**▲31.5**（前期**▲19.5**）とそれぞれ**4.0**ポイント、**12.0**ポイント悪化した。販売価格のDIは**11.4**（前期**10.8**）で上昇したとする割合は**25.7%**、下降したとする割合は**14.3%**となっている。仕入価格のDIは**▲11.5**（前期**▲18.9**）で上昇したとする割合は**22.9%**、下降したとする割合は**11.4%**となっている。資金繰りのDIは**▲28.6**（前期**▲16.2**）と**12.4**ポイント悪化した。借入れをした企業は**25.7%**（前期**21.6%**）、設備投資の実施をした企業は**16.7%**（前期**25.0%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI**▲40.0**（前年同期**▲47.2**）と**7.2**ポイント改善、収益はDI**▲48.6**（前年同期**▲33.4**）と**15.2**ポイント悪化した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DI**▲51.4**（今期**▲37.1**）と**14.3**ポイント悪化幅が強まる予想をしている。各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲22.9**（今期**▲22.9**）と今期同様の見通しである。収益のDIは**▲22.9**（今期**▲31.5**）と減少幅が縮小する見通しである。販売価格のDIは**5.8**（今期**11.4**）と価格の上昇が弱まる見通しである。仕入価格のDIは**▲8.5**（今期**▲11.5**）と上昇が弱まる見通しである。借入れを予定している企業は**17.6%**（今期実施**25.7%**）、設備投資の実施を予定している企業は**11.4%**（今期実施**16.7%**）となっている。

◆DI指数推移

	平成28年				平成29年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲41.7	▲38.2	▲44.7	▲43.3	▲37.1	▲51.4
売 上 額	▲13.8	▲38.2	▲31.6	▲18.9	▲22.9	▲22.9
収 益	▲11.1	▲42.4	▲36.8	▲19.5	▲31.5	▲22.9
販 売 価 格	▲13.9	24.3	▲7.9	10.8	11.4	5.8
仕 入 価 格	▲5.5	▲27.2	▲18.5	▲18.9	▲11.5	▲8.5
在 庫	22.2	6.1	15.8	22.2	17.7	20.6
資 金 繰 り	▲25.0	▲15.1	▲13.1	▲16.2	▲28.6	▲25.7

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 施	した	19.4	14.7	28.9	21.6	25.7	17.6
	しない	80.6	85.3	71.1	78.4	74.3	82.4
借 入 難 易 度	容 易	13.9	21.2	21.6	17.1	9.1	—
	不 変	47.2	42.5	40.6	54.4	45.5	—
	難	11.1	12.1	13.5	11.4	21.2	—
	該当なし	27.8	24.2	24.3	17.1	24.2	—

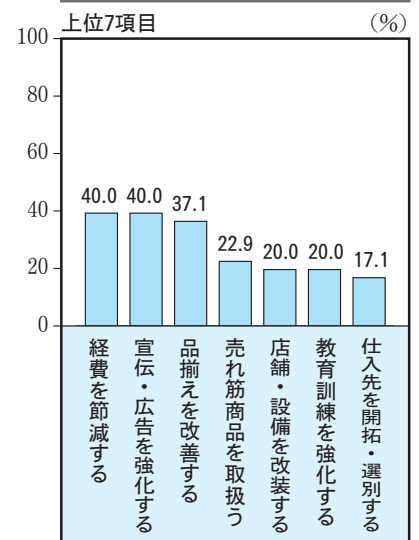
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	した	16.7	14.7	21.1	25.0	16.7	11.4
	しない	83.3	85.3	78.9	75.0	83.3	88.6
状 況	過 剰	2.8	6.3	8.1	8.6	9.4	12.5
	適 正	69.4	71.8	70.3	71.4	62.5	59.4
	不 足	27.8	21.9	21.6	20.0	28.1	28.1
DI	▲25.0	▲15.6	▲13.5	▲11.4	▲18.7	▲15.6	

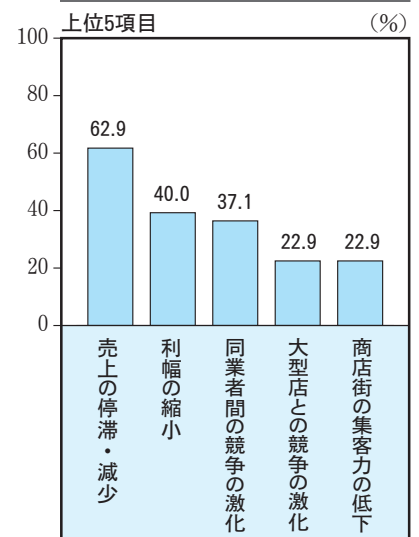
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	5.6	6.5	0.0	5.7	5.7	8.6
	不 変	83.3	87.0	94.4	91.4	85.7	77.1
	減 少	11.1	6.5	5.6	2.9	8.6	14.3
人 手	過 剰	11.1	8.8	8.3	2.9	2.9	5.9
	適 正	75.0	76.5	83.4	82.8	85.3	82.3
	不 足	13.9	14.7	8.3	14.3	11.8	11.8

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



## サービス業 (調査先企業30社 うち回答企業26社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は7.7%（前期7.7%）、悪かったとする企業は57.7%（前期26.9%）で、DIは▲50.0（前期▲19.2）と30.8ポイント低下、業況感が大きく落ち込んだ。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲53.8（前期▲23.1）、収益のDIは▲53.8（前期▲27.0）とそれぞれ30.7ポイント、26.8ポイント低下した。仕入価格のDIは▲26.9（前期▲11.5）で価格が上昇した企業の割合が増加した。料金価格のDIは▲7.7（前期0.0）と価格が下降した企業の割合が増加した。資金繰りのDIは▲32.0（前期▲19.2）と12.8ポイント悪化した。借入れをした企業は25.0%（前期34.6%）、設備投資の実施をした企業は28.6%（前期28.6%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI▲42.3（前年同期▲7.4）、収益はDI▲46.1（前年同期▲18.5）とそれぞれ34.9ポイント、27.6ポイント悪化した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DI▲30.8（今期▲50.0）と19.2ポイント上昇、大きく悪化幅が拡大した今期ではあるが持ち直す予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲3.9（今期▲53.8）と改善する見通しである。収益のDIも▲3.9（今期▲53.8）と改善する見通しである。仕入価格のDIは▲19.2（今期▲26.9）で、価格の上昇を弱める見通しである。料金価格のDIは15.4（今期▲7.7）で、上昇に転じる見通しである。資金繰りのDIは▲12.0（今期▲32.0）と改善する見通しである。借入れを予定している企業は24.0%（今期実施25.0%）、設備投資の実施を予定している企業は25.0%（今期実施28.6%）となっている。

## ◆DI指数推移

	平成28年				平成29年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲29.6	▲26.9	▲18.5	▲19.2	▲50.0	▲30.8
売 上 額	▲37.1	▲11.6	3.7	▲23.1	▲53.8	▲3.9
収 益	▲51.9	▲7.7	0.0	▲27.0	▲53.8	▲3.9
料 金 価 格	▲7.4	15.4	0.0	0.0	▲7.7	15.4
材 料 価 格	▲11.1	▲34.6	▲22.2	▲11.5	▲26.9	▲19.2
資 金 繰 り	▲25.9	▲8.0	▲3.7	▲19.2	▲32.0	▲12.0

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	し た	22.2	32.0	14.8	34.6	25.0	24.0
	し ない	77.8	68.0	85.2	65.4	75.0	76.0
借 入 難 易 度	容 易	7.4	8.3	3.8	7.7	4.3	—
	不 変	70.4	54.2	73.1	61.5	60.9	—
	難	11.1	16.7	15.4	15.4	17.4	—
	該 当 なし	11.1	20.8	7.7	15.4	17.4	—

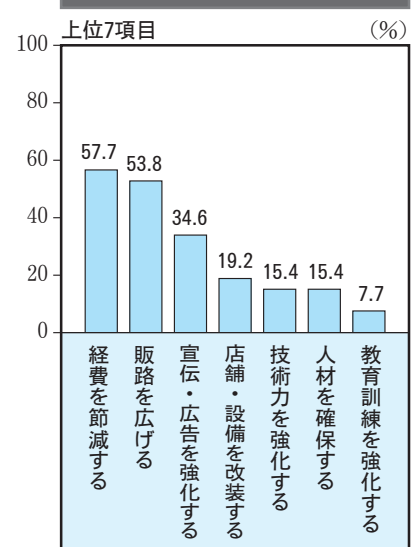
## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	し た	18.5	22.2	31.0	28.6	28.6	25.0
	し ない	81.5	77.8	69.0	71.4	71.4	75.0
状 況	過 剰	0.0	0.0	3.7	0.0	4.0	8.0
	適 正	88.9	87.0	85.2	92.3	84.0	76.0
	不 足	11.1	13.0	11.1	7.7	12.0	16.0
DI	▲11.1	▲13.0	▲7.4	▲7.7	▲8.0	▲8.0	

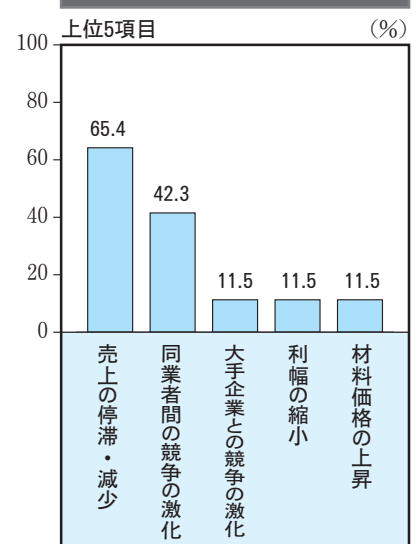
## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	11.5	16.7	20.0	8.7	0.0	4.3
	不 変	69.3	66.6	68.0	82.6	82.6	82.7
	減 少	19.2	16.7	12.0	8.7	17.4	13.0
人 手	過 剰	18.5	16.7	11.1	8.0	16.0	8.0
	適 正	66.7	54.1	70.4	64.0	68.0	68.0
	不 足	14.8	29.2	18.5	28.0	16.0	24.0

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



## 不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業5社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**25.0%**（前期**16.7%**）、悪かったとする企業は**25.0%**（前期**33.3%**）で、DIは**0.0**（前期**▲16.6**）と改善した。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**0.0**（前期**▲16.6**）、収益のDIは**0.0**（前期**▲16.6**）とそれぞれ**16.6**ポイント上昇した。販売価格のDIは**▲40.0**（前期**0.0**）と下降を強めた。仕入価格のDIは**40.0**（前期**16.7**）と下降を強めた。借入れをした企業は**0.0%**（前期**16.7%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI**▲0.0**（前年同期**▲0.0**）、収益はDI**▲0.0**（前年同期**0.0**）と前期同様に推移した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DI**50.0**（今期**0.0**）と良化を予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**0.0**（今期**0.0**）、収益のDIは**0.0**（今期**0.0**）とそれぞれ常態を予想している。販売価格のDIは**▲20.0**（今期**▲40.0**）と下降幅が縮小する予想をしている。仕入価格のDIは**20.0**（今期**40.0**）と下降幅が縮小する予想をしている。借入れを予定している企業は**20.0%**（今期実施**0.0%**）となっている。

### ◆DI指数推移

(%)

	平成28年				平成29年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	33.3	33.3	16.6	▲16.6	0.0	50.0
売 上 額	33.3	16.6	0.0	▲16.6	0.0	0.0
収 益	33.3	16.6	0.0	▲16.6	0.0	0.0
販 売 価 格	0.0	▲16.7	16.7	0.0	▲40.0	▲20.0
仕 入 価 格	16.7	33.3	16.7	16.7	40.0	20.0
在 庫	0.0	16.7	0.0	0.0	▲40.0	▲20.0
資 金 繰 り	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	20.0

### ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

(%)

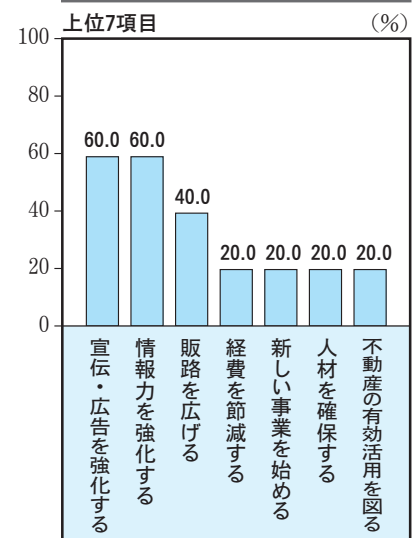
	平成28年				平成29年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	した	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	20.0
	しない	66.7	83.3	83.3	83.3	100.0	80.0
借 入 難 易 度	容 易	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	—
	不 変	40.0	40.0	60.0	60.0	75.0	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該当なし	40.0	40.0	20.0	40.0	25.0	—

### ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

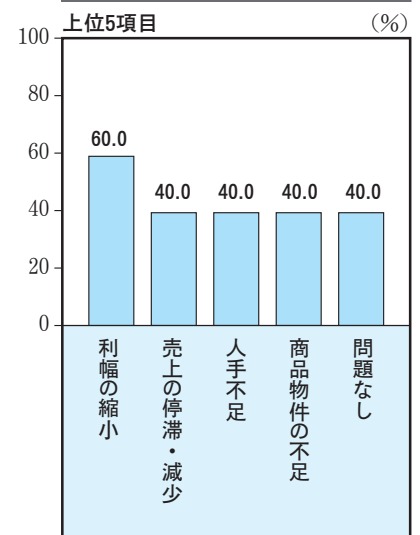
(%)

	平成28年				平成29年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
残 業 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	80.0	100.0	100.0	100.0	75.0
	減 少	20.0	0.0	0.0	0.0	25.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	80.0	100.0	80.0	80.0	50.0
	不 足	20.0	0.0	20.0	20.0	50.0

### 重点経営施策(複数回答)



### 経営上の問題点(複数回答)





## 特別調査 人手不足下における中小企業の人材活用策について

### 問 1

少子高齢化社会の進展にともない、企業経営上の課題の一つとして人手不足がクローズアップされています。こうしたなか、女性の活躍推進が期待されていますが、貴社の従業員数に占める女性の割合（非正規含む）はおよそどのくらいですか。また、現在女性が最も活躍している職務はどのような分野ですか。

#### 【従業員に占める女性の割合】

総合でみると、「10%以上30%未満」が36.7%と一番多く、次いで「30%以上50%未満」20.0%、「50%以上70%未満」18.3%、「10%未満」17.8%の順になっている。30%未満（「10%以上30%未満」、「10%未満」の合計）が54.5%と、半数を超える企業が女性の占める割合が3割未満となっている。

業種別にみると、建設業は「10%以上30%未満」50.0%、「10%未満」42.1%と女性の割合が特に低く、卸売業も「10%以上30%未満」60.0%と女性の割合が低くなっている。反対に小売業とサービス業は女性の割合が高くなっている。

#### 【女性が最も活躍している職務分野】

総合でみると、「総務・経理・庶務」が46.4%と一番多く、次いで「製造・生産・現場作業」29.1%、「営業・販売・接客」22.3%の順になっている。

一番多い分野を業種別にみた場合、「総務・経理・庶務」が建設業89.5%・卸売業80.0%・不動産業75.0%、「製造・生産・現場作業」が製造業69.0%、「営業・販売・接客」が小売業68.8%と一つの分野に集中している。サービス業は「営業・販売・接客」45.8%、「総務・経理・庶務」41.7%の2つの分野に分かれている。（%）

【割合】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 10%未満	17.8	11.4	42.1	10.0	9.1	12.0	25.0
2. 10%以上30%未満	36.7	42.9	50.0	60.0	9.1	28.0	25.0
3. 30%以上50%未満	20.0	21.4	7.9	20.0	30.3	20.0	25.0
4. 50%以上70%未満	18.3	21.4	0.0	10.0	33.3	24.0	0.0
5. 70%以上	7.2	2.9	0.0	0.0	18.2	16.0	25.0
【最も活躍している職務分野】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
6. 営業・販売・接客	22.3	2.8	7.9	10.0	68.8	45.8	25.0
7. 総務・経理・庶務	46.4	26.8	89.5	80.0	28.1	41.7	75.0
8. 企画・管理・研究開発	0.5	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9. 製造・生産・現場作業	29.1	69.0	0.0	10.0	0.0	8.3	0.0
10. その他	1.7	0.0	2.6	0.0	3.1	4.2	0.0

### 問 2

問1と同様、高齢者（ここでは60歳以上を想定）の活躍推進について、貴社の従業員数に占める高齢者の割合（非正規含む）はおよそどのくらいですか。また、現在高齢者が最も活躍している職務はどのような分野ですか。

#### 【従業員に占める高齢者の割合】

総合でみると、「10%未満」が42.5%と一番多く、次いで「10%以上30%未満」34.1%、「30%以上50%未満」9.5%、「50%以上70%未満」7.8%、「70%以上」6.1%の順になっている。

業種別でみると、建設業以外の業種は「10%未満」が一番多い回答となっているが、建設業は「10%以上30%未満」が47.4%と一番多く、他の業種より高齢者の占める割合が高くなっている。

#### 【高齢者が最も活躍している職務分野】

総合でみると、「製造・生産・現場作業」が54.7%と一番多く、次いで「営業・販売・接客」28.5%、「総務・経理・庶務」11.0%の順になっている。

業種別でみると、「製造・生産・現場作業」で製造業は87.1%、建設業は59.5%と多くの高齢者の方が活躍している。小売業・卸売業・サービス業では「営業・販売・接客」の分野に占める割合の方が高くなっている。（%）

【割合】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 10%未満	42.5	50.7	28.9	70.0	32.3	40.0	50.0
2. 10%以上30%未満	34.1	38.1	47.4	30.0	16.1	28.0	25.0
3. 30%以上50%未満	9.5	5.6	13.1	0.0	19.4	8.0	0.0
4. 50%以上70%未満	7.8	4.2	5.3	0.0	16.1	16.0	0.0
5. 70%以上	6.1	1.4	5.3	0.0	16.1	8.0	25.0
【最も活躍している職務分野】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
6. 営業・販売・接客	28.5	5.7	13.5	55.6	82.2	50.0	0.0
7. 総務・経理・庶務	11.0	2.9	16.2	22.2	10.7	16.6	50.0
8. 企画・管理・研究開発	3.5	4.3	5.4	0.0	0.0	4.2	0.0
9. 製造・生産・現場作業	54.7	87.1	59.5	22.2	7.1	25.0	25.0
10. その他	2.3	0.0	5.4	0.0	0.0	4.2	25.0

**問 3**

問 1 と同様、外国人の活躍推進について、貴社では従業員数に占める外国人の割合(非正規含む)はおよそどのくらいですか。また、現在外国人が最も活躍している職務はどのような分野ですか。

**【従業員に占める外国人の割合】**

総合で見ると、「10%未満」が**94.2%**と一番多く、次いで「10%以上30%未満」**5.1%**、「30%以上50%未満」**0.7%**の順になっている。

業種別で見ると、製造業以外の業種は「10%未満」が**100.0%**、製造業においては「10%未満」**86.2%**、「10%以上30%未満」**12.1%**、「30%以上50%未満」**1.7%**となっている。

**【外国人が最も活躍している職務分野】**

総合で見ると、「その他」**65.8%**、「製造・生産・現場作業」**33.3%**が多い回答となっている。(%)

【割合】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 10%未満	94.2	86.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
2. 10%以上30%未満	5.1	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 30%以上50%未満	0.7	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4. 50%以上70%未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5. 70%以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【最も活躍している職務分野】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
6. 営業・販売・接客	0.9	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0
7. 総務・経理・庶務	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8. 企画・管理・研究開発	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9. 製造・生産・現場作業	33.3	49.2	10.0	0.0	30.8	10.0	0.0
10. その他	65.8	50.8	90.0	100.0	61.5	90.0	100.0

**問 4**

女性、高齢者、外国人の活躍推進それぞれについて、貴社では今後どのようにお考えですか。

**【女性の活躍】**

総合で見ると、「どちらともいえない」が**70.9%**、「増やす方針」が**28.0%**、「減らす方針」が**1.1%**となっている。業種別で見ると、「増やす方針」では製造業が**32.9%**、小売業が**32.3%**と高くなっている。「減らす方針」は小売業が**6.4%**、小売業以外の業種では皆無(0.0%)となっている。

**【高齢者の活躍】**

総合で見ると、「どちらともいえない」が**73.3%**、「増やす方針」が**18.7%**、「減らす方針」が**8.0%**となっている。業種別で見ると、建設業で「増やす方針」が**28.9%**と高く、人手不足から高齢者雇用が多い現状がうかがえる。

**【外国人の活躍】**

総合で見ると、「どちらともいえない」が**89.4%**、「増やす方針」と「減らす方針」がともに**5.3%**となっている。業種別で見ると、製造業で「増やす方針」が**11.3%**と高くなっている。(%)

【女性の活躍】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 増やす方針	28.0	32.9	25.0	20.0	32.3	16.7	25.0
2. どちらともいえない	70.9	67.1	75.0	80.0	61.3	83.3	75.0
3. 減らす方針	1.1	0.0	0.0	0.0	6.4	0.0	0.0
【高齢者の活躍】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
4. 増やす方針	18.7	22.9	28.9	0.0	3.3	16.7	25.0
5. どちらともいえない	73.3	74.3	55.3	90.0	90.0	70.8	75.0
6. 減らす方針	8.0	2.8	15.8	10.0	6.7	12.5	0.0
【外国人の活躍】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
8. 増やす方針	5.3	11.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
9. どちらともいえない	89.4	87.1	90.6	100.0	95.8	85.0	75.0
10. 減らす方針	5.3	1.6	6.3	0.0	4.2	15.0	25.0

**問 5**

政府は「働き方改革実現会議」において、以下の9項目を課題として検討しています。

これら9項目のうち、貴社が注力しようと考えているものを選んでお答えください。【複数回答】

総合で見ると、「女性・若者が活躍しやすい環境整備」**38.8%**、「賃金引き上げと労働生産性の向上」**36.7%**が多く、次いで「長時間労働の是正」**26.1%**、「高齢者の就業促進」**18.1%**、「同一労働同一賃金など非正規雇用の処遇改善」**10.1%**の順になっている。

業種別でも、すべての業種において「女性・若者が活躍しやすい環境整備」、「賃金引き上げと労働生産性の向上」、「長時間労働の是正」に重点を置いている。(%)

【割合】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 同一労働同一賃金など非正規雇用の処遇改善	10.1	7.0	12.2	0.0	5.7	23.1	20.0
2. 賃金引き上げと労働生産性の向上	36.7	43.7	39.0	30.0	28.6	23.1	60.0
3. 長時間労働の是正	26.1	35.2	24.4	20.0	14.3	23.1	20.0
4. 柔軟な転職支援・格差是正のための人材育成	6.9	5.6	7.3	0.0	11.4	7.7	0.0
5. テレワーク、副業・兼業など柔軟な働き方	3.2	1.4	0.0	10.0	5.7	7.7	0.0
6. 女性・若者が活躍しやすい環境整備	38.8	35.2	48.8	10.0	42.9	38.5	40.0
7. 高齢者の就業促進	18.1	21.1	14.6	0.0	17.1	23.1	20.0
8. 病気の治療、子育て・介護と仕事の両立	8.5	11.3	12.2	0.0	2.9	7.7	0.0
9. 外国人材の受入れ	4.3	8.5	2.4	0.0	2.9	0.0	0.0
10. 特になし	25.0	21.1	24.4	40.0	34.3	19.2	20.0